みやぎの林業だより

目次

特集　みやぎの林業の成長産業化実現に向けて！（最終回）

県内の林業・木材産業は東日本大震災で甚大な被害を受けましたが，関係者の努力と幅広い支援により早期の復旧を果たしました。復興の進展とともに県内の住宅着工戸数も増加傾向で推移し，林業・木材産業の再生が進んでいます。

しかし，わが国は今後，急速な高齢化と人口減少が予想されており，本県でも住宅需要の大幅な増加を見込むことは困難な情勢にあります。森林資源が成熟し利用期を迎える中，林業・木材産業は大きな変化を求められています。

本誌では，宮城県の林業の進むべき方向性を探るべく，これまで５回にわたって独自の視点や取組で活躍しているリーダー達から話を聴いてきましたが，今回はシリーズ最終回として，新しい時代をけん引する３名の若手経営者に鼎談していただきました。

◎宮城十條林産株式会社　代表取締役社長　亀山武弘さん
◎株式会社佐久　専務取締役　佐藤太一さん
◎株式会社山大　代表取締役社長　髙橋暢介さん　……２～５

また，みやぎ森と緑の県民条例の施行を記念して，平成３０年１１月に開催された「宮城つながる森業交流祭」の様子を掲載しました。……６～７

話題
◎登米市森林管理協議会の林業成長産業化への取組…… 8
◎「ケセンヌマの森兄弟」の自伐支援の取組…… 8
◎生産者による「原木しいたけ料理教室」を開催！…… 9
◎大崎市（旧三本木町）たけのこの出荷制限解除 …… 9
◎山菜類の販売についてのお願い…… 10
◎森のヒーローになろう―担い手確保に向けた取組―…… 10
◎「木の香るまちづくり」情報交換会が開催されました！…… 11
◎海岸施設等を復旧しています…… 11
◎鳥獣被害対策専門指導員がイノシシ捕獲に奮闘中！…… 12
◎こもれびの森森林科学館がリニューアルオープン！…… 12
市況
◎木材市況の動向・特産市況の動向…… 13

平成31年3月28日
発行
217号

表紙写真

★（右上・左上）宮城つながる森業交流祭　＜関連記事P6～7＞
★（右下）高校生の職場体験「林業の仕事ゼミナール」　＜関連記事P10＞
★（左下）防災林造成工事の完成状況　＜関連記事P11＞

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html

伐採の届け出・森林の新規所有の届け出は、市町村へ

特集

鼎　談

宮城の森林・林業の未来を拓く

宮城県の林業がこれから進むべき方向性について、独自の視点や取組で活躍しているリーダー達からこれまで5回にわたって話を聴いてきました。今回はシリーズ最終回として、新しい時代を託された3名の若手経営者に思い描く“未来”について鼎談していただきました。

㈱山大　代表取締役社長
髙橋暢介氏

＜会社概要＞

昭和39年創業。年間4万㎥以上の原木を消費する県内最大の製材工場。平成30年度は大スパンの無柱空間を可能にしたATAハイブリット工法でプレカット第2工場を建設。今後、木造化が期待される非住宅，大型木造分野で，CLT，木構造特殊建築の普及を目指す。
〔第7回富県宮城グランプリ受賞〕

㈱佐久　専務取締役
佐藤太一氏

＜会社概要＞

南三陸町内に約3百haの山林を所有し，「南三陸杉」のブランディングや，他産業分野と連携するなど林業経営の新機軸を打ち出す。平成27年に県内で初めてFSC® 国際森林認証を取得。南三陸町役場再建では，公共建築物で国内初のFSC® 全体プロジェクト認証の取得に中心的な役割を果たすなど，南三陸町から持続可能な林業モデルを発信する。

宮城十條林産㈱　代表取締役社長
亀山武弘氏

＜会社概要＞

昭和22年創業。県内の年間素材生産量の約2割（県内第1位）を占める素材生産事業のほか，製材やチップの製造販売も手掛ける県内を代表する林業会社。4月に全国900を超える林業・木材産業の若手経営者で構成される「日本木材壮青年団体連合会」の会長に就任。林業・木材産業界のリーダーとして活躍が期待されている。

―これからの宮城県の林業・木材産業を考えて行く上で、現状をどのように捉えていますか―

【亀山】宮城県は、林業や木材事業を展開する上で良い条件が揃っている。森林資源が豊富で、素材生産事業体も木材を加工する企業の数も多い。消費地も近いので、様々なことができる可能性があると感じている。

一方で、その可能性を上手く活かしきれていない。何か新たな取組を始めようとしたときに、アイディアを持っている人はいるが、実行となるとなかなか前に進めないようなところがある。企業ならそろばんを弾くことは当然のことなのだが、これまでは「儲からないから」で終わってしまい、「どうしたら解決できるか」というところまで踏み込んで、業界全体で議論するような関係が残念ながら足りないように感じている。これからは、どうしたら良いかという発想を持っていないと林業・木材産業は進んでいかない時代になってきていると思う。多分、今日集まった三人は、そういう思いを共有しているのではないか。

【佐藤】私も同じ意見だ。宮城県には合板工場や製紙工場があり、山大さんのような製材工場もある。林業をしている立場からすれば、木材を出すには凄く恵まれた地域だと思う。宮城県

は、素材生産量も全国で十番目位に位置しており、高い能力を持っている。ただ森林所有者にとって、山林経営を行うという意識は全国的に薄れてきており、宮城県も例外ではない。自分の財産（山林）をどのように回し活用するかを考える視点が脱落してしまっている。これからの林業や木材産業には「責任を持って自分で考え、動ける人」がとても重要。こうした問題を解決していくためには、川上から川下が一緒に話し合い、手を組んで進んでいく必要があると思っている。これまでは「木材価格が安い」など現状の問題提起で終わってしまっていたように感じている。そこからどうしていくかを考えられるのは我々の世代。同世代の人たちが手を組み知恵を出し合えば、もっと面白いことが出来るのではないかと思っている。

【髙橋】私たちは仙台市という大消費地を抱えていながら、その好条件を活かし切れていないというのが率直な思いだ。公共施設や商業施設の木造化率は、東北の中で仙台が一番低い。東北の中心都市である仙台において、もっと木材を使ってもらうことが、宮城県だけでなく東北全体の林業・木材産業の振興に繋がる。林業や木材を扱う企業が多いことは宮城県の強みではあるが、他の産業と比べて有機的な連携が弱い。人工林が利用期を迎え、もっと県産材を活用していこうという時代になった。国や県も、公共施設等の非住宅分野の木造化を後押ししている。こうした機会を活かすには、個々の単独企業だけでは対応が難しい。今までのように、各社が自社利益だけに着目していては真に有機的な横の繋がりはつくれない。全体の利益を考えながら連携していくことが重要になる。

―成長産業化に向けて林業・木材分野でも新たな技術開発が進んでいる。これらの動きをどう見ていますか―

【亀山】どの産業にとっても労働力不足が大きな問題になっている。人を確保することも非常に大事だが、人手をかけずにやる方法を考えることも大切だと思っていて、新しい技術はこうした課題の解決に役立つのではないか。

弊社では、山林の境界調査や材積調査にレーザー測量技術を活用できないか検討を進めている。実際にドローンを飛ばし、どの位の精度のものが得られるのか、今までの自分たちの測量方法と比較検証している。レーザー測量技術を使えば、三人で一週間かかる毎木調査を一時間半程度で終えることができる。本数や太さの把握だけでなく、その場所の地形を３Ｄ画像で見ることができるので、路網の検討にも役立つ。費用は未だ高いが、技術的には使ってみたいと思わせるレベルまできている。

【髙橋】私はＩｏＴ技術に着目している。少子高齢化が進んで人口が減少していくので、工場のオートメーション化は避けて通れない課題だ。それにはＩｏＴ技術の活用が重要だと考えている。工場を完全無人化することは難しいかもしれないが、今は一つの建屋に二～三人の社員を配置し工場を動かしているところを、一つの建屋に一人というのが目標。実現には何年かかるか分からないが取り組んでいきたい。将来は、営業も含め、全てをシステム化したいと思っている。

【佐藤】産業として成長を続ける上で、イノベーションは不可欠。そのために林業や木材利用のための本当の研究をもっと行う必要がある。大学の研究も大切だし、県の林業技術総合センターにしても、もっと研究予算を増やしてやれたらいい。そうしなければ、産業に生かせる新しい技術は生まれてこないと思う。研究開発は、色々な研究があって、没ネタもある中から使える技術が生まれてくるものなので、その辺りの大切さは共有しておいた方がいい。税金を使う以上、成果を求められるのは仕方が無いこと。実のある研究をしっかりやれているかが問題だ。

―イノベーションという面では、異業種連携や他分野との連携により、森林や木材に新たな価値を生み出していく取組も注目されるがどうか―

【佐藤】違う分野・業種の方との接点は、様々な刺激があり、今までにない発想も得られる。実際に連携してみて分かる発見が沢山あり、とても必要なことだと感じている。将来にわたって丸太を安定的に供給していくことが私たちの責任。山林経営が厳しい時代だからこそ、林業を永続的に行っていくための支えとして、丸太を売るだけでない部分もやっていかないといけないと思っている。昔から言われているように、経営として収入源を三つ作れたら理想的。せっかくだから楽しいことをしたいと思って、色々な分野に友達を作っている。

【亀山】佐藤さんは、外資系大手のコーヒーショップ等とも連携し、ＦＳＣ材の活用や商品化に取り組んでいる。これはとっても大切なことで、そういった取組が山全体の価値を上げていくことに繋がる。我々にとって価値が無いと思っている物にも、外の視点から見ると価値があったりする。私も全国の様々な会合に参加させていただく

機会があり、色々な分野の方の話を聴き、とても刺激を受けている。産業界ではＳＤＧｓへの取組が活発になっているが、木材業界の人たちにも取組を広めていこうということで、国産材で机を作って商品化していくプロジェクトを学んでいる。個人で活動している人が多く、規模は小さいものの、同じ目的を持つ人と前向きな話ができ、そういう中から新しい価値が出てくることを実感している。私よりももっと若い世代の人たちにもこういう学びの機会があることが重要だと思う。時代は変化していくので、常に学ぶ姿勢は大事にしたい。

【髙橋】農業や漁業のように、自分たちの口に入るものへの関心に比べ、林業はあまり重要視されていないと感じる。けれど農業や漁業に必要な水がどこから供給されているかと言えば、たどり着くのは森林である。もっと森林や林業、木材のことを知ってもらう必要があり、そういう観点で農林水産の連携が一番取りかかりやすいように思う。違う分野の人が、互いを知ることによって、新しい展開や連携が生まれてくるのではないか。

【佐藤】行政との連携も必要。木材利用の価値だけでなく、持続可能性だったり、山全体の公共的付加価値を経済的価値にどう落とし込むかということを考え、一つの方法としてＦＳＣ認証に取り組んでいる。津波で被災した南三陸町庁舎の新築に当たって、町に提案しＦＳＣプロジェクト認証にチャレンジした。ＦＳＣ自体が未だあまり知られていなかったが、町が実験台になってくれた。被災地の復興を象徴する新しい取組として注目され、この南三陸町庁舎建設のプロジェクトを機に、ＦＳＣの認知度を随分高めることができた。こういうチャレンジは、新しいノウハウを生む上でとても重要であり、行政の協力も大きかった。山林の公共的付加価値を経済的価値に落とし込むようなことも、これからの林業には必要だと思っている。

【亀山】異業種・他分野との連携に限らず、同じ林業・木材分野で、他県と連携・協力しながら課題を解決していくことも必要な視点だと思う。例えば、宮城県には集成材工場がないが、必ずしも自分たちで全部をやることが良いとは限らない。距離的な条件などは考慮する必要があるが、連携可能な地域や範囲を検討し、広域的に連携・協力していく仕組みをつくっておくことも良いと思う。

―新たな技術開発や連携などに大きな可能性を感じる一方で、足下を見ると林業の担い手対策や伐採後の再造林の問題等が山積している―

【亀山】山で働いてくれる人たちをどうやって育てていくかというところは非常に大きな課題だと認識している。林業の人たちは、「自分はこうやってきた」という方が多く、他の人の作業のやり方を見ない。うちでは作業の様子を映像で残しながら、こういう作業をした方が効率が良いということを見せる検討をしている。とにかく映像で見せて、意識を変えてもらうとともに、研修に参加したり社内アカデミーをつくって教えたりすることを考えているが、一企業で行うには限界もある。

【佐藤】他県では、林業大学校をつくったりしている。こういう取組も検討しても良いのではないか。

再造林については、うちは「無理矢理でもやるぞ」という意識を持っているので、しっかり植えていくつもり。（笑）山林を所有しているだけで固定資産税がコストとして発生する。所有山林をどう回し活用していくかを考えていなければ、コストがかかっているところに更に投資して植林をし、育てるという発想には至らない。だから多くの森林所有者さんは、伐って収入を得て終わりで良いと思うのが普通なのではないか。山林経営を持続的に行っていくためにも、多角経営によりリスク分散していくことが必要だと思う。

【亀山】原価計算の会計制度がネックになっている。間伐など山の手入れに要した経費は、全て残存木に掛かっていくため、三～四十年して皆伐すると最後に必ず赤字になる。毎年の固定資産税、手入れ費用の方が上回ってしまう。企業で山林を所有し、施業しているところはみんなこれで苦しんでいる。

【佐藤】四月から森林経営管理制度がスタートする。森林所有者の山林経営という意識が低下している状況から、そこを補う形で作られた制度だと思う。これまで難しかった集約化が進むことは山林経営にとってメリット。まとまった状態で長期間山林を預けてもらえるなら、これまでのノウハウを活かすことができる。ここで重要になってくるのは、精度の高い森林経営計画だ。毎年の出材ボリュームを把握し、伐採から再造林まで現実味のある計画をしっかりと立てて循環利用できるようにしていく必要がある。

【亀山】ビジョンを描いて山林全体を管理する、使いやすく成長させてくれるフォレスターの役割は大きい。フォレスターのような人材の育成も重要な課題だと思う。

【髙橋】戦後植林した木が利用期を迎え、ようやく国産材時代がやってきた。国産材時代は、これから二十年位

は続くのではないかと言われているが、将来の資源を考えると再造林の問題は喫緊の課題だ。森林を育てていかなければ、再び外材の時代が来る可能性もある。振り返ったときに、山を荒らすような時代になっていてはいけない。私たちに課せられた課題だと思う。

―林業・木材産業は大きな転換期・節目を迎えていると思います。既に多方面で活躍されている皆さんですが、これからの宮城の林業・木材産業の未来を切り開いていくためのリーダー像についてどう考えていますか―

【亀山】最初にも話題になったが、宮城県は、林業や木材事業を展開する上で良い条件が揃っていて様々な可能性を持っているが、その可能性を上手く活かしきれていない。業界全体で「どうしたら良いか」というところを考え、まとまっていくためには、明確なビジョンを示していけるリーダーが望ましい。

【髙橋】復興需要も終わり、今後戸建て住宅の着工戸数減少が顕著になってくる思うので、商業施設、公共施設といった非住宅分野の木造化への取組が重要になると見ている。非住宅分野で木造化の流れをしっかりとつくることが、結果として山側への還元や、森林の循環利用に繋がっていく。そのためにも川上・川中・川下が協力して必要な材を安定して供給していく仕組みが必要であり、全体の利益を考えながら連携していくことが重要だ。今日のように、そうした思いを共有できる若手の経営者等がまとまっていければ良いと思う。

最近は、各地に木質バイオマス発電施設が稼働し、材の流れが変わってきていることも危惧している。A材からD材まで、それぞれの用途に適切に使われるように、出来るだけ中正な立場でコントロールする場も必要だと思う。

【佐藤】ヨーロッパでは、組合のようなものをつくってバイオマス発電用の原木を調整している事例があると聞く。今の日本にはコントロールする部分は確かに抜けている感じがする。上手く動かすための仕組みを考えるブレーンのような人間も必要だ。木材の利用先が多様化しているため、リーダーシップがあり、全体を客観的に公平に見られる人が相応しい。

―最後に、皆さんのこれからの夢や目標を伺いたい―

【髙橋】四月から非住宅に特化した新しい部署を設置する。大型公共施設を視野に入れて、「宮城県Ｎｏ．１の木造ゼネコン」と呼ばれるように頑張りたい。国産材を活かせる製材工場を持っていて、プレカット加工もできることが当社の強みなので、それを最大限活かしながら、県産材の普及に向け、率先して取り組もうと考えている。

【亀山】弊社は、山林部の全社員が山の査定ができることが会社としての一番の強みだと思う。素材生産は、人の財産を扱っている商売なので、その財産価値をできるだけ上げられるような社員を育て、山主さんに対し「山の価値」を最大化する会社になれるよう取り組んでいきたい。

今回の鼎談では、「連携」が重要なキーワードとして共有できた。髙橋さんのように、新たな目標を掲げ、先進的な取組をしようとする企業をどう支えるかという視点も大切だ。こうしたリーディングカンパニーがあって材の出口が増えれば、川上から川下までのサプライチェーンは繋がってくると思うので、林業・木材産業全体の振興のために様々な連携や協力の形を探っていきたい。

【佐藤】震災を機に研究の仕事を辞めて地元に戻ってきた。せっかくなので楽しい仕事をしたい。今売ろうとしている木は、先代の人たちが植えて育ててきたもの。それだけで勝負しようとは思っていない。自分なりに、山全体の価値だったり、森林の持続可能性だったり、公共的な価値の部分に着目し、それを経済価値に落とし込むことなど、あの手この手で山林の新しい価値を創出し、山林経営の新たなビジネスモデルをつくってみたい。

〈参考〉バックナンバー
URL:http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html

【第1回】
◎石巻地区森林組合　代表理事組合長　大内伸之さん
◎セイホク株式会社　専務取締役　相澤秀郎さん
◎東北大学大学院　工学研究科　教授　前田匡樹さん

【第2回】
◎気仙沼地域エネルギー開発株式会社　代表取締役社長　髙橋正樹さん
◎北星林業株式会社　営業部長　杉山秀行さん
◎物林株式会社　東北復興事業部　部長　勝田幸仁朗さん

【第3回】
◎富士大学　学長（宮城県産業振興審議会委員、同水産林業部会会長）　岡田秀二さん
◎「新みやぎ森林・林業の将来ビジョン」を見る【第4回】
◎宮城県農林水産部　次長（技術担当）　小杉徳彦さん
◎宮城県林業振興協会　会長　佐藤久一郎さん
◎（公財）オイスカ　海岸林再生プロジェクト担当部長　吉田俊通さん

【第5回】
◎株式会社仙台木材市場　代表取締役　守屋長光さん
◎栗駒高原森林組合　代表理事組合長　佐藤則明さん
◎株式会社櫻田建築設計事務所　部長　吉田博志さん

★取材・編集の御協力、誠にありがとうございました。

特集

「宮城つながる森業交流祭」が盛会に開催されました！

昨年四月に「みやぎ森と緑の県民条例」が施行されたことを記念する「宮城つながる森業交流祭～森林づくり・木づかいの新しい動きとその魅力～」が一一月一九日に仙台国際センターで開催されました。交流祭は県が主催し、林野庁をはじめ三〇を超える県内の企業、団体などが後援しました。

当日は、村井知事が「森林づくり月間」・「木づかい月間」の制定を宣言し、森林・林業の振興発展に功績があった一〇団体・企業に対して感謝状を贈呈したほか、森林づくりに関する講演会、シンポジウムが開催されました。また、隣の会場には「ポシスターセッション・ふれあい会場」が設けられ、大学や企業、NPO団体等が、日頃の森林づくり活動や震災復興の取組をパネル等で紹介したり、新しい木質建材として注目されるCLTの展示が行われ、多くの来場者で賑わいました。

条例に掲げられた森林づくりや森林の多面的機能、木材利用の重要性や、全国から支援を受け復旧が進む海岸防災林の状況などを広く発信することを目的とした交流祭は、主催者の予想を超える四百名をの参加を得て盛会に開催されました。

【第一部】（午前）森林づくり講演会

「多種共存の森―持続的な木材生産による地域の再生―」をテーマに、東北大学大学院農学研究科教授　清和研二氏が講演を行いました。

清和教授は、これまでの研究から、森林が多種多様な遷移メカニズムと再生方法を持っていることを紹介するとともに、森林の営みと共存しながら行う林業や森の恵みによって地域を再生させる手法について解説しました。

【第二部】（午後）「森林づくり月間」・「木づかい月間」制定宣言

「みやぎ森と緑の県民条例」第二三条では、森林づくり及び県産材の積極的な利用について県民総参加の意識を醸成することを目的として、森林づくり月間並びに県産材利用推進月間を設けることとされています。

村井知事は、毎年、植林の適期である四月及び五月（春期）と九月及び十月（秋期）を「みやぎの森林づくり月間」に、九月から十一月までを「木づかい月間」と定め、関係団体、企業、市町村、NPO等との連携と協力の輪を広げていくことを宣言しました。

清和教授による講演会の様子

知事による月間制定宣言

「森林づくり表彰」・「木づかい表彰」

【森林づくり部門】

■宮城県農林種苗農業協同組合

■特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会

■JXTGエネルギー㈱

■東北ミサワホーム㈱

■東北発電工業㈱

【木づかい部門】

■特定非営利活動法人SCR

■（一社）女川町復興公営住宅建設推進協議会

■登米市森林管理協議会

■（一社）名取市復興公営住宅建設進協議会

■宮城県CLT等普及推進協議会

受賞者と知事・議長との記念撮影

シンポジウム～森林（もり）づくり・木づかいの新しい動きとその魅力～

シンポジウムは、宮城県林業振興課の猪内太郎、南三陸森林管理協議会の佐藤太一氏、東北大学大学院教授の前田匡樹氏、公益財団法人オイスカの吉田俊通氏の四人がパネラーとして登壇し、それぞれ宮城の林業・木材産業の魅力と目指す姿、国際森林認証取得の取組、CLTなど木造建築の可能性、海岸防災林再生の取組について報告し、富士大学学長の岡田秀二氏がコーディネーターとなり、今後の展望について活発な意見交換が行われていました。シンポジウムのまとめとして岡田氏は、次のように述べています。

宮城の林業・木材産業は、百万都市仙台を抱え需給環境が整っており、色々な構想やチャレンジができる。新たな林業ビジョンもできた。いい素材の木もある。新しい技術やサイエンスも開発されている。あとは我々一人一人が、これからの宮城型を創ろうという意思を持てばいいだけのように感じた。森業には、森林と林業と木材産業と、そして都市や都市の人々とを、この全体、これをまるごと繋ぐという意味が込められている。本日の森業交流祭、今日という日を、ここに居る一人一人がそういう意思を持つ出発の日にしていただければ、この交流祭は大成功だと思っている。

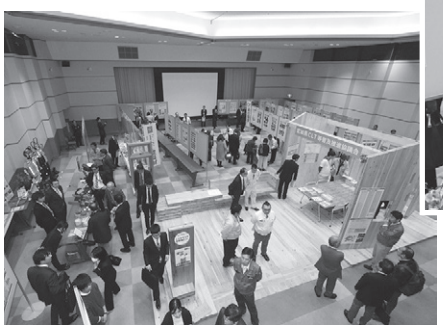
コーディネーター
（富士大学 学長 岡田秀二氏）

シンポジウムの様子

パネラー（左から，宮城県林業振興課 猪内太郎，南三陸森林管理協議会 佐藤太一氏，東北大学大学院 教授 前田匡樹氏，公益財団法人オイスカ 吉田俊通氏）

ポスターセッション・ふれあい会場

八つのテーマ毎に、二十の企業、団体、NPO、大学、高校等が出展し交流を楽しみました。



（宮城つながる森業交流祭実行委員会事務局：林業振興課企画推進班）

登米市森林管理協議会の林業成長産業化への取組

「登米市森林管理協議会」が中心となり林野庁の公募事業へ申請した登米地域「林業成長産業化地域構想」が採択され、本県初となる地域指定を受け、十月から六つの重点プロジェクトに基づいた多様な取組を実施してきました。

FSC認証フローリング製品化の協議

登米市森林管理協議会のＦＳＣ森林認証面積は年次監査の結果八千四七五㌶に拡大し、県内ＣｏＣ取得製材工場四社・合板工場一社とＦＭ認証材の供給協定を締結し、ＦＳＣ認証製品のサプライチェーン構築を図るほか、県外製紙工場一社・県外フローリング製造販売事業体二社とも同様にＦＳＣ認証製品の製造販売を開始することとしました。

特に、国産ＦＳＣ認証広葉樹材によるフローリングの本格的な生産販売に向けた取組は、今後の成長産業化に向けた大きな柱として関係事業体とともに、積極的なＰＲ活動を行っていくこととし、その第一弾として、登米市中田総合支所一階のスペースに広葉樹（コナラ）フローリングのモデル施工を行い、一般市民等への普及ＰＲを行っています。

広葉樹フローリングのモデル施工

一方、首都圏をはじめ、全国のバイヤーに対する日用製品から家具服飾品の新商品をＰＲする東京インターナショナルギフトショー春２０１９において、登米市森林管理協議会の活動やオーダー製品に向けた協議を行ってきました。

バイヤーをはじめ、福岡県大川や岐阜県飛騨などの有名家具産地の関係者からＦＳＣ認証広葉樹材の供給体制への問い合わせや、環境ＮＧＯ、木育活動を行っているＮＰＯ法人等からの協働に向けた協議を頂くなど、直接的な販売ではないものの今後の協議会活動の方向性についてのヒントを得ることができました。

（登米地域事務所）

ギフトショーでの展示PR

「ケセンスマの森兄弟」の自伐支援の取組

平成二八年度から気仙沼市の〝地域おこし協力隊員〟として、地域の林業支援を行いつつ、林業家を目指す小柳さん（埼玉出身）と星さん（仙台出身）が、間伐受託に取り組んでいます。お二人とも林業は未経験でしたが、気仙沼地域エネルギー開発（株）に配属後は地域の自伐林家グループの施業に加わって、基本的技術を習得。そして、今秋は自立的な展開に向け、地区部分林組合からの受託間伐（三㌶三㌔・作業道一一七〇㍍）を二人で無事完了に導きました。文字どおりの強力な助っ人として、気仙沼に溶け込もうとしているお二人です。

（右）小柳さん、（左）星さん

（気仙沼地方振興事務所）

生産者による「原木しいたけ料理教室」を開催！

二月一三日に広瀬通りにある仙台市ガス局ガスサロンにて、仙台市原木シイタケ生産推進協議会とガス局との共催で「原木シイタケ料理教室」が開催され、一九人の方に参加していただきました。

当日は、仙台市太白区秋保町で原木シイタケの生産を行っている佐藤さんが講師となり、シイタケの栽培方法や生産に対する思いについてお話しするとともに、生産者ならではの美味しい食べ方を紹介しました。実習では、お弁当屋さんも経営する佐藤さんから調理のコツなども披露され、熱心にメモを取る参加者も見られました。

できあがった料理を試食した参加者からは、「肉厚で美味しい」「家でもぜひ試したい」と好評で、中には「実は苦手だったシイタケが今日は美味しいと思えました」というお話もあり、佐藤さんも笑みを浮かべていました。

生産者と一般消費者の交流を広めることで、風評被害の払拭や消費拡大に繋げてまいります。

（仙台地方振興事務所）

参加者に指導する佐藤さん

完成したシイタケ料理

大崎市（旧三本木町）たけのこの出荷制限解除

平成二八年に大崎市（旧三本木町）から産出された「たけのこ」が出荷前検査で食品基準値百ベクレル／キロを超過しました。

出荷制限は、原則、市町村単位で指示されますが、基準を超過した大崎市では、旧三本木町以外の旧六市町のたけのこについても迅速に検査を行い、その結果、基準値を超えるものは検出されなかったため、旧三本木町のみ、同年六月に国から出荷制限が指示されました。

たけのこは、直売所等の人気商品であることから、早期解除を目指して平成二八年からモニタリング検査を開始し、平成三〇年度までに八四検体を検査しました。この間、安定して基準値を下回っていることが確認されたことから、平成三〇年十月に出荷制限指示が解除され、今春からたけのこの出荷が再開される見通しとなりました。

今後は、県の「宮城の安全・安心なたけのこ生産管理実施要綱」に沿って適切な出荷管理を実施してまいりますので、安心して御賞味いただけます。

（北部地方振興事務所）

説明会の様子

出荷時添付シール

山菜類の販売についてのお願い

今年も間もなく山菜類の出荷シーズンを迎えます。シーズンになると県には、食品の基準値を超過した野生の特用林産物の販売に関する通報が多く寄せられます。

県内では、東京電力福島第一原発事故による放射性物質の影響により、平成三一年二月末現在、下表のとおり二一市町村、一〇品目で出荷制限指示又は出荷自粛の措置がとられています。

昨年の厚生労働省の買い上げ調査では、放射性物質濃度が基準値(百ベクレル／キロ)を超過したワラビが販売されていたことが判明し、その後、大崎市及び加美町が出荷制限指示を受けています。

山菜類の販売に当たっては、次の点に気をつけてください。

①出荷制限指示又は出荷自粛の措置が講じられている品目は、直売所等で販売することは出来ません。また、インターネットオークションでの販売も出来ません。

②出荷制限指示を受けていない地域・品目において出荷する場合は、出荷前に放射性物質検査で安全を確認したものを販売してください。

なお、県では、国のガイドラインに基づき、出荷前検査を実施しておりますので、県林業振興課又は管轄の地方振興事務所林業振興部に御相談ください。

安全な山菜類の販売に御協力をお願いします。

特用林産物の出荷制限及び自粛の状況

出荷制限	原木しいたけ(露地)	石巻市，白石市，東松島市，富谷市，蔵王町
	野生きのこ	仙台市，栗原市，大崎市，村田町
	たけのこ	栗原市(旧築館町，旧志波姫町，旧高清水町，旧瀬峰町，旧若柳町，旧一迫町を除く)，丸森町(旧耕野村，旧丸森町，旧小斎村，旧筆甫村，旧大内村を除く)
	こしあぶら	気仙沼市，登米市，栗原市，大崎市，七ヶ宿町，大和町，南三陸町
	ぜんまい	気仙沼市，大崎市，丸森町
	たらのめ(野生)	栗原市，大崎市
	わらび(野生)	大崎市，加美町
出荷制限(一部解除)	原木しいたけ(露地)	仙台市，名取市，角田市，気仙沼市，登米市，栗原市，大崎市，丸森町，七ヶ宿町，村田町，川崎町，大和町，大衡村，加美町，色麻町，南三陸町
出荷自粛(一部解除)	原木なめこ	気仙沼市
	原木むきたけ	栗原市
	原木しいたけ(施設)	大衡村

(林業振興課地域林業振興班)

森のヒーローになろう ―担い手確保に向けた取組―

県では、宮城県林業労働力確保支援センターと共催で林業への就職を考えている若年者を対象とした『山仕事ガイダンス』や、林業を就職時の選択肢の一つとしてもらうため高校生を対象とした『「林業の仕事」ゼミナール』を開催しています。

『山仕事ガイダンス』では、林業という職業に就職した際のより具体的なイメージをもってもらえるよう就職に関する支援プログラムの紹介や現場職員の経験談、仕事体験、就職相談などのプログラム構成としており、今年度、当ガイダンスに参加した方が県内の会社に就職されています。

『「林業の仕事」ゼミナール』では、林業という職業に興味を持ってもらうことを目的とし、高校生の職場体験として、プロセッサなどの高性能林業機械が動く現場で伐採作業を見学するだけでなく、実際に林業機械を操作できる時間を設けたり、現場職員へのインタビューを行いました。今年度の参加者は一四名中七名が女子高生であり、女子高生の林業に対する興味の高さを感じました。さらに、林業機械を操作する時間では、モジモジする男子高生を横目に、目をキラキラさせながら積極的に機械操作を体験する女子高生達を目にすることができました。現在、女性の就職率が約五％と低い当県ですが、近い将来、林業が多くの女性の働く場となることを期待しています。

(林業振興課林業基盤整備班)

「木の香るまちづくり」情報交換会が開催されました！

公共建築物の木造化を進めるため、市町村等職員に木材の知識を深めていただくことを目的に、平成三一年二月一三日に宮城北部流域森林・林業活性化センター石巻支部の主催で「木の香るまちづくり」情報交換会が開催されました。

はじめに、普段目にする機会の少ない木材製品の製造現場を知っていただくため、石巻市にある合板大手の西北プライウッド(株)の工場を視察しました。同社ではＣＬＴ等の様々な製品を製造しており、各種製品の製造工程等について説明していただきました。

その後、東松島市立宮野森小学校を視察しました。同校は「森の学校」をコンセプトに、隣接する森と調和させるため、宮城県産等の無垢の木材をふんだんに使用し、木の温かみが感じられる小学校となっております。

視察後の意見交換会では、当事務所から公共建築物の木造・木質化の意義や助成制度の情報提供を行いました。意見交換の場では、参加者からは、「実際の木造施設を見学し、自然の良さを感じた。今後、木材を使うことができるよう、取り組んでいきたい」などの意見がありました。

今後も公共建築物の木造化をはじめ、木材の利用が進むよう取り組んでまいります。

（東部地方振興事務所）

工場視察の様子

小学校視察の様子

海岸施設等を復旧しています

東日本大震災で被災した海岸防災林の復旧事業や海岸崖地の崩壊地整備を進めていますが、今年度完成を迎えた主な箇所を紹介します。

㈠　防災林造成事業　尾崎・千岩田（気仙沼市松崎尾崎地内）

当地では、海岸防潮堤及び海岸防災林が、波浪、高潮から住宅や道路等を保全していましたが、大津波により失われました。これを復旧するためのL1津波に対応する海岸防潮堤工事は国（林野庁）が代行して行っていますが、当所では植生基盤盛土を行って抵抗性クロマツを植栽することにより、背後の海岸防災林の造成を完了しました。

防災林造成工事の完了状況
（尾崎・千岩田）

㈡　三陸リアスの森保全対策事業　本吉郡南三陸町歌津字尾崎地内（尾崎）

当地では、大津波や高潮による塩害を受けたマツ林が枯損し、その後の波浪等によって海岸崖地が侵食され、繰り返し斜面が崩壊していました。このため、枯死木や土砂が流出し、漁場施設等への被害が懸念され、対策実施が望まれていました。

当事業では、枯損木を除去し、崩壊斜面を整形・緑化するとともに、波浪対策のため水際部に消波ブロックを設置することにより山腹の安定を図りました。

海岸崖地対策工事の完了状況
（尾崎）

（気仙沼地方振興事務所）

鳥獣被害対策専門指導員がイノシシ捕獲に奮闘中！

イノシシ等による農林業被害が激化する中、野生鳥獣の捕獲拡大による被害の軽減を目的として、平成二九年度から当事務所に鳥獣被害対策専門指導員が二名配置されましたが、今年度は新たに二名が鳥獣捕獲に必要な狩猟免許や銃の所持許可を取得したことから、一一月から専門指導員の任命を受け、四名体制による有害捕獲を実施しています。

銃で止め刺しを行う専門指導員

捕獲区域については、昨年度から実施している川崎町と丸森町に加え、捕獲頭数が急激に増加している白石市や村田町での実施に向けて各市町と協議を重ね、一一月から各市町の捕獲許可を得て、白石市白川地区及び村田町菅生地区を活動区域に加えて捕獲を行っています。四名の専門指導員のいずれも、これまで狩猟や有害捕獲の経験はないことから、わなの設置から捕獲に至るまで、地元捕獲隊等からの指導を受けて、試行錯誤を繰り返しながら技術を磨いてきました。その結果、これまで丸森町で一五頭、川崎町で四頭、白石市で一頭の計二〇頭を捕獲することができました。

地元高校生に捕獲方法を説明する専門指導員

管内でのイノシシの捕獲頭数は、指定管理鳥獣等捕獲事業も含めると、今年度は過去最多を超える勢いですが、来年度、更に二名の指導員が追加される予定であることから、活動区域を更に拡大するとともに、捕獲の効率化を図り、捕獲頭数の一層の増加と管内の農業被害等の軽減に取り組んでまいります。

（大河原地方振興事務所）

こもれびの森 森林科学館がリニューアルオープン！

栗原市花山にある宮城県こもれびの森は、平成五年に開園した森林公園で、以来、森の仕組みや林業に対する理解を深めるとともに、野外学習やレクリエーションの場などとして親しまれています。

こもれびの森の主要施設である森林科学館も建設から二〇数年が経ち、展示物が古くなったり内外装も傷みが目立ってきたため、平成二八年度からみやぎ環境税を活用して改装工事を進め、四月一日からリニューアルオープンすることになりました。

改装された森林科学館の内部

地元こもれびの森で見られる花や植物、野鳥、きのこ、小動物の映像や写真を新たに多数展示し、森の役割や仕組みを分かりやすく説明したり、生物多様性に関するパネルも展示しました。

照明のＬＥＤ化やトイレの洋式化で、より明るく快適な施設となりました。

指定管理者である宮城県森林インストラクター協会によるネイチャークラフトや自然体験教室などのイベントも随時企画しており、大変好評です。

見違えるように新しくなった森林科学館に、是非、お越しください。

【森林科学館について】

入館料：無料

休館日：無休（一二月から三月まで冬季休館）

開館時間：午前九時から午後四時三〇分まで（一一月は午後四時まで）

（自然保護課みどり保全班）

木材市況の動向

表１　各共販所別木材市況(平成31年２月)

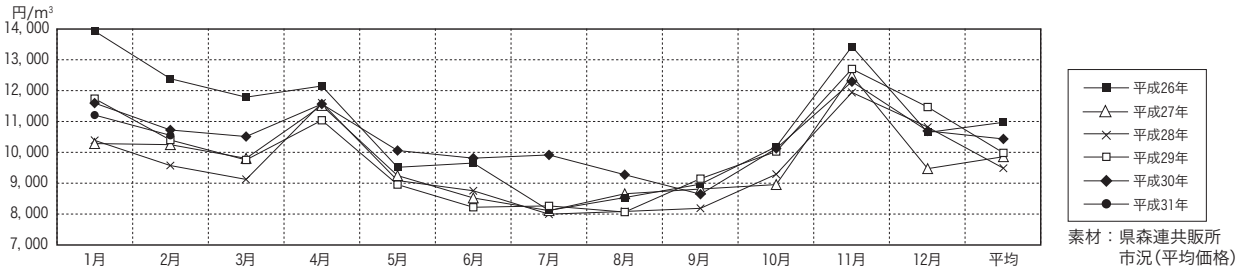
樹種	材長 m	径級 cm	価格（中値　単位：円／㎥） 仙南	仙北	東和	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14～16	―	―	10,080	―	―	―
		16～30	―	―	―	―	―	―
		20～30	11,520	―	―	11,500	11,880	―
	4.00	10～13直曲	10,080	11,880	11,880	11,880	11,880	―
		14～18	10,800	11,880	11,880	11,880	11,880	―
		20～28	―	11,880	11,880	―	―	―
		30上	―	12,000	12,600	―	―	―
	3.65～4.00	20～28	11,520	―	―	12,600	12,240	―
		30上	11,520	―	―	12,600	12,240	―
	1.95	16上	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	―

資料：宮城県森林組合連合会

概　況

素材動向

・素材価格は前年同時期より下降の傾向にある。



素材：県森連共販所市況(平均価格)

図１　素材価格の動き

特産市況の動向

表２　生しいたけ価格の市況　単位：円／kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成26年	1,010	1,001	917	781	851	859	891	912	911	874	981	1,094
平成27年	1,144	1,055	984	916	886	766	852	948	960	970	962	1,038
平成28年	1,037	1,025	972	946	965	955	961	977	1,018	1,014	998	1,054
平成29年	1,034	945	861	862	890	775	863	851	884	980	971	1,034
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993										

資料：仙台中央卸売市場

概　況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い，価格は大きく下落したが，全国的な品薄状況を背景に平成26年次から平成30年次の平均単価は4年連続で，900円代と，震災前の平均価格を上回っている。

・なお，平成30年次の県産生しいたけの入荷量は214ｔ（前年比63ｔ減）であり，市場占有率は44％（前年比10ポイント減）であった。

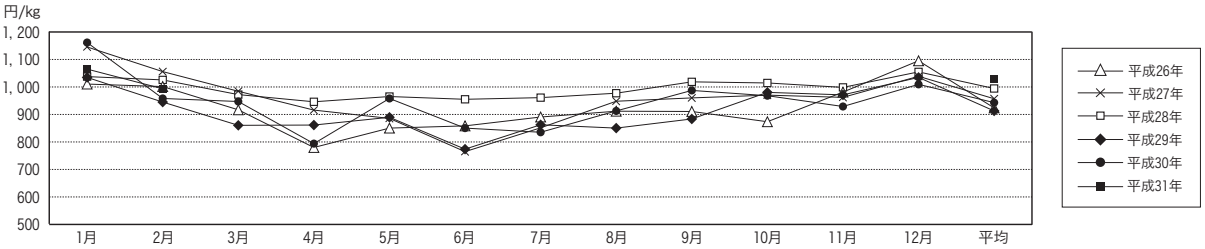


図２　生しいたけ価格の動向

表３　宮城県の新設住宅着工戸数(平成31年１月)

項　目	総　数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成31年1月(戸)	1,423	917	506	64.4
平成30年1月(戸)	1,317	937	380	71.1
前年同月比(%)	108.0	97.9	133.2	――
平成30年2月～31年1月(戸)	19,752	13,922	5,830	70.5
平成29年2月～30年1月(戸)	21,324	14,499	6,825	68.0
前年同期比(%)	92.6	96.0	85.4	――

資料：住宅着工統計

概　況

新設住宅着工戸数

・１月の新設住宅着工数は前年同月比で増加したが，木造戸数は前年を下回っている。木造率は減少した。

・累計比は前年を下回っており，木造戸数も前年を下回っているが，木造率は増加した。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負

宮城十條林産株式会社

代表取締役　亀山武弘

本　社　〒980－0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261－2151㈹　FAX(022)261－2150
営業所　気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工　場　気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社　宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

坂元植林合資会社
株式会社サカモト
坂元植林の家
サカモトグループ

地域との共生
「めぐるめぐみ」をテーマに
私たちは自然を愛し、
大切に育てていきます。

〒989-1601　宮城県柴田郡柴田町船岡中央 1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事　亀山征弘
専務理事　亀山武弘
理　事　小澤幸三
理　事　佐々木市夫
監　事　阿部貢
監　事　一條英夫

〒980-0871　仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話　022(261)2151　FAX　022(261)215 0

宮城県木材チップ工業会

会　長　奥津文男
副会長　亀山征弘
副会長　永井政雄
副会長　米澤光秀
ほか理事一同

〒980-0871　仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話　022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4－46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266－7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事　遊佐勘左衛門
事務局長　佐々木治樹

〒989-6165　大崎市古川十日町４番 14 号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は
信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本　社　仙台市青葉区花京院二丁目2－22　TEL022－224－1261・FAX022－265－9231
盛岡営業所　盛岡市青山四丁目47－32　TEL019－641－7713・FAX019－641－7807

E-mail　info@tutuikoki.co.jp
U R L　http://www.tutuikoki.co.jp

見て触れて 住んでしみじみ 木の住まい
宮城県木材協同組合
理事長 佐 藤 豊 彦

For Woody Life

〒981-0908　宮城県仙台市青葉区東照宮1–8–8
TEL：022–233–2883　FAX：022–275–4936
E-mail:miyagi_wood@waltz.ocn.ne.jp

みやぎ材利用センター

みやぎ材利用センター本部（宮城県木材協同組合）　TEL.022-233-2883

利用センター総合窓口　TEL.022-239-2661
優良みやぎ材、県産材を全てお世話致します。ちょっとした疑問から注文まで全てお任せ。ご要望の工期に併せてご提供致します。

- 建築資材部　(株)仙台木材市場　TEL.022-239-2011
- 土木資材部　宮城県森林組合連合会　TEL.022-345-2205
- 合板資材部　石巻地区森林組合　TEL.0225-93-1711

〒981 - 0908　仙台市青葉区東照宮1－8－8
TEL：022－233－2883　FAX：022－275－4936

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます

一般社団法人 宮城県林業公社
（森林整備法人）

〒981-0914　仙台市青葉区堤通雨宮町4－17
TEL（022）275-9171　FAX（022）275-9172
http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp

緑の募金
にご協力ください！
春の強調月間　4月1日～5月31日
平成31年「緑の募金」
目標額47,000,000円

平成31年緑の募金運動スローガン

緑の募金で進めよう SDGs
～森林を守る　森林を活かす～

「植える」緑化から「使う」緑化へ

平成31年度　緑化促進事業

- みどり環境促進事業
- ふれあいの森づくり事業
- ふるさとの樹木保存事業
- みんなの森造成事業
- みんなの街づくり事業
- 海岸防災林再生事業
- 次代へ繋げる海岸防災林の保育を担うボランティア養成・啓発事業
- 木育活動支援事業
- 宮城県緑化運動70周年記念緑化事業

詳しくはHP（http://miyagiryokusui.com）または下記事務局までお問い合わせください。

緑の募金

公益社団法人宮城県緑化推進委員会
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託　農林中金森林再生基金」（農中森力（もりちから）基金）等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫　仙台支店

〒980－0011　仙台市青葉区上杉一丁目2番16号（JAビル宮城内）　☎022（711）7531（代）

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest
森林組合系統の新しいロゴマークです

宮城県森林組合連合会
仙台市青葉区上杉2丁目4－46
TEL022-225-5991　FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は
仙南木材センター　0224-65-2166　　東和木材センター　0220-45-2240
大衡綜合センター　022-345-2205　　津山木材センター　0225-68-3038
岩出山木材センター　0229-72-1877

■樹木の枝や根の有効利用は　ウッドリサイクルセンター　022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木，海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ，
林業用苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980－0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL（022）222－3661　FAX（022）222－3688

林業の今を伝える月刊誌　平成30年度の購読申込受付中!!

GR 現代林業
A5判　80頁
年間購読料 5,200円（送料込み）

林業新知識
B5判　24頁
年間購読料 2,800円（送料込み）

山 林
A5判　66頁
年間購読料 3,500円（送料込み）

図書の申込、問い合わせは
宮城県林業振興協会
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階
TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

発　行　宮城県林業振興協会　仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号　☎〇二二―三〇一―七五〇一
編集協力　宮城県農林水産部林業振興課